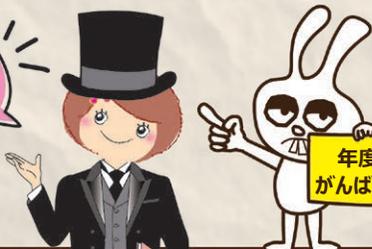


100周年
はじめました。



年度内
がんばります

フリーペーパー ペッコ

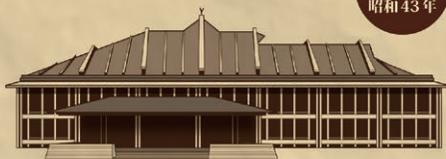
PECCO

VOL.61 2022.11

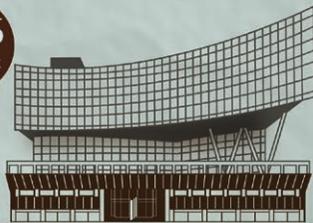
1922
大正11年



1968
昭和43年



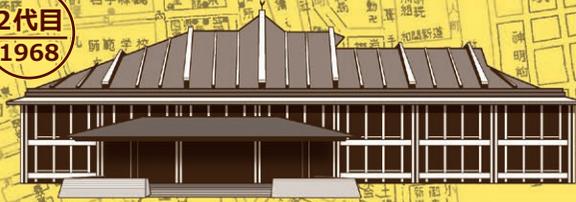
2006
平成18年



発行：岩手県立図書館



2代目館時代の豆知識



工事が全然進まない!

昭和41年11月に着工した2代目館ですが、事前のボーリングによる地質調査結果よりもかなり多くの石が出たり、一部資材が値上げしたことによる資材の入手難などがあり、**新築工事は難航**しました。



工事中

建築家がすごい!

世界的にも有名な建築家・**菊竹清訓**さんきくたけ きよのりの設計による2代目館。特徴的な屋根の形状は「**岩手山**」をイメージしています。ちなみに2015年まで現存した「旧 岩手教育会館」も菊竹さんによる作品でした。



建設中の屋根部分

確かに岩手山っぽい!

最初は違う屋根だった!?

2代目館の大きな特徴とも言える屋根の形ですが、実はこの形、**最初の設計模型にはありませんでした**。着工の2ヶ月半前にあたる昭和41年8月13日の『岩手日報』記事には、「**外面は緑ガラス張りに__県立図書館最終設計決まる**」との見出しがあり、平らな屋根の模型が掲載されていました。



岩手日報に掲載された模型

屋根が平らだとつまらない!



南部鉄器色?

南部鉄瓶を思わせる落ち着いた色合いも特徴の2代目館。菊竹さんは当初、実際に**岩手県産の鑄鉄をサッシに用いた**と考えていたようですが、これは残念ながら実現せず。しかし入口の扉の**取っ手**は、自動ドアに変わるまで**南部鉄器**が使われていました。



ふたば

屋根と児童コーナーとわかば

1階にあった児童コーナー「**わかば読書室**」の名前の由来は、意外な場所、「**屋根**」に隠されています。2代目館の屋根には、岩手県出身で日本を代表する彫刻家・**舟越保武**さんが制作した「**ふたば**」という名の棟飾りがあります。若木の芽を意味する「ふたば」は、まさに「わかば」そのもの。子どもの成長を見守るような存在として名づけられました。

生まれも育ちも岩手! 当時、会いに行けるカモシカとして活躍しました!

カモシカさんプロフィール

2代目館の玄関ロビーにはカモシカの剥製が置かれていました。

▼生まれ

下閉伊郡岩泉町小川(当時)

▼この姿を手に入れた日(剥製制作日)

昭和45年12月5日

▼図書館に来た経緯

昭和46年(?)に岩泉町教育委員会から寄贈



数えて53になります。

本が書庫に入りません。

移転して30年も過ぎると、資料がどんどん増えていきました。そこで、書庫に入りきらなくなった資料は別の場所で保管することに。その場所は、当時盛岡市住吉町にあった旧盛岡短期大学の建物内。その本を読みたい人がいたときには、職員が**自転車**で取りに行っていたんだとか。場合によっては数日待つてもらったこともあったそう。

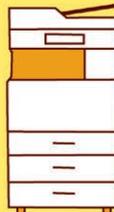


これでも急いでます。

コピー代、15円!?

非常にやっかいな価格設定ですね。

図書館では現在、コピー代が白黒1枚10円ですが、昔は1枚20円という時代もありました。その後少し値下げをして1枚15円になったのですが、機械の金額設定が10円単位でしかできなかったため、10円だけ機械に投入し、残り**5円分は直接職員に支払**っていたそうです。



地下室 ~ Basement ~

2代目館には地下室がありました。そこには視聴室や映写室、録音室のほか、利用者が持ってきた**お弁当**を食べられる食事スペースもありました。



視聴室

ちなみに聞いているのは...
フランク・アウルセルのベスト・アルバム「**モスコウの夜はふけて**」

でしょうか?

カリンカの~かつつてピーナッツがカバーしてねえ?

受け継がれる「わかば」

3代目館としてアイーナに移った現在も、「わかば」の名称は受け継がれています。年に2回発行している図書館報「**としよかんいわて**」では、児童コーナーの活動を紹介する「**わかば通信**」として。また、乳幼児用の利用者カードは「**わかばカード**」と呼ばれ、ふたばの絵が描かれています。

わかばカード



りょうしゃカード

いわてけんりつとしよかん

おすすめ新着郷土資料 【7月-9月新着分】



18枚のポートレート 柏葉幸子小品集

柏葉幸子 著／植田たてり 画
理論社 出版

震災から半年後、岬公園に人が集まり海を見ていることに気づいた友美。そこには震災で父親を亡くした裕太もいて。暮らしの中で突然訪れる不思議な出会い、驚き、感動から生まれる18のお話を集めた作品集。岩手県出身の児童文学作家、柏葉幸子氏が描く現代の遠野物語です。



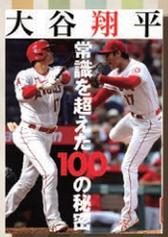
戊辰戦争と東北・道南 地方・民衆の視座から

菊池勇夫 著／芙蓉書房出版 出版
戊辰戦争は必然の戦争だったのか。明治維新と同時に、2018年に150年となった戊辰戦争。藩の物語からなるべく離れ、民衆史的な視点も入れて戊辰戦争の内実を実証的に明らかにしていく研究書です。第一部では戊辰戦争に関する評論、第二部では東北戦争、第三部では箱館戦争について記載されています。



宮沢賢治 『銀河鉄道の夜』を読み解く ピー・ジェントルマンの種子に乗って

大村紘一郎 著／アスバラ社 出版
クラーク博士の「ピー・ジェントルマン」の精神をはじめ、保阪嘉内やバートヴエン等の影響を受けた『銀河鉄道の夜』。そんな『銀河鉄道の夜』を新解釈で読み解き、賢治の思いを伝える一冊です。他にも、親友・保阪嘉内や賢治と関わった女性たち、影響を受けた音楽についても触られています。



大谷翔平 常識を超えた100の秘密

インテルフィン 出版

二刀流で歴史的シーズンを成し遂げ、いまやメジャーを代表する選手となったロサンゼルス・エンゼルス所属の大谷翔平選手。その「凄さ」と「原点」を探る100のエピソードを、再現マンガとイラストを交えて紹介します。野球にまつわるエピソードだけでなく、性格や生い立ち等についても収録された一冊です。



長袖とヘッドフォン

加藤勝 著／エンジェルパサー 出版
高校生の頃、小嶺拓海はアルバイト先で同級生の小野田一家と遭遇します。長袖のブラウスを着ている小野田優雨とヘッドフォンを付けている彼女の兄にはある秘密があり。岩手県出身の著者が心に響く5つの物語を描きます。『北の文学』第75号優秀作に選ばれた「ピンク」も収録している短編集です。



よちよち文藝部

久世番子 著／文藝春秋 出版
太宰治、夏目漱石、ドストエフスキー…。国内外の様々な文豪と名作の魅力や、番子部長と部員がわかりやすく紹介するコミックエッセイ「よちよち文藝部」。2012年刊行の日本文豪版と2019年刊行の海外文豪版の合本版です。日本の文豪を取り上げる前半部では、宮沢賢治と石川啄木が取り上げられています。